

青少年育成委員会

委員長名：木戸 陽成

副委員長名：岸本 和也

委員名：伊東 孝太郎、佐藤 忠之、平井 麻衣子、河村 琢磨、内海 修治

1) 事業報告

(Ⅰ) 思いやりの心の大切さを学ぶ事業の開催

- (a) 内容：勉強会の開催
- (b) 時期：2011年 4月19日(火)
- (c) 開催場所：北鎌倉・幻董庵(別棟)
- (d) 対象：正会員29名 入会希望者2名

(Ⅱ) 親から子へ思いやる心の大切さを伝えるための事業の開催

- (a) 内容：親子で取り組む体験事業の開催
- (b) 時期：2011年 8月21日(日)
- (c) 開催場所・会場名：山崎浄化センター
- (d) 対象：正会員26名 OB1名 市民親子34組68名 石巻ご家族10名

(Ⅲ) 他人に関心を持ち相手の立場になって考え実践する事業の開催

- (a) 内容：体験学習の開催
- (b) 時期：2011年10月29日(土)
- (c) 開催場所・会場名：材木座海岸およびその周辺
- (d) 対象：正会員28名 OB1名 市民親子26組52名

2) 委員会報告

他人を思いやる心が失われつつあると言われている昨今、手本となるべき大人の私たちが思いやる心をおろそかにしては、子供たちの豊かな心を育てていくことが難しくなると懸念されます。周囲に無関心で終わることなく他人に関心を持ち、相手の立場になって自分が何をすべきか考え、実践することが思いやりの心であると青少年育成委員会は考え、思いやりの心子供たちに伝えるべく活動してまいりました。4月例会は、まず大人である私たち鎌倉青年会議所メンバーが他人を思いやる心の大切さを再確認し率先して学ぶ事業でした。3月11日発災の大震災により生じた計画停電の影響で会場変更を余儀なくされましたが、講師の長谷川孝一様から示唆に富んだ数多くの貴重な気づきを頂きました。これを踏まえた8月例会は、メンバーに加えて市民と共に、親子で一緒に取り組む活動を通じて思いやる心を親から子へ伝える事業でしたが、委員会で熟慮・議論を幾度となく重ねた結果、熱気球体験を通して親から子へ思いやりの心の大切さを伝える事業を立案し、そして、何としても被災地から親子を招き、一緒に参加してもらうこ

とにより心の支援と同時に、思いやりの心を発露する実践のお手本を大人である私たちが示すことで、より強く子供達にメッセージを伝えたいと考え、2010年12月の定時総会で承認いただいた活動方針に沿いながら実現可能な内容を模索し遂行するという、前例のない挑戦を行いました。10月例会は、他人に関心を持ち相手の立場になって自分が何をすべきか考え実践する体験学習として、鎌倉の海を舞台に「あそびのトライアスロン」と題して、アウトリガーカヌー体験をはじめとする3つのプログラムに取り組むことで、体を動かしながら五感で思いやりの心の大切さを実感して頂く事業を行いました。

これらの事業を通じて、思いやりの心を持つことの素晴らしさや大切さを子供たちに伝え、豊かな心で子供たちが健全に成長する一助となることが出来た手ごたえを感じております。これは必ずや、明るい豊かな社会の実現に近づくものと確信いたします。

一年以上に及ぶ当委員会の取り組みは、決して順風満帆ではなく、幾度と無く困難に直面し、数多くの岐路で意見が割れる中、後戻りが許されない難しい選択を迫られ、一つの方向性を見出して行く、その繰り返しだったように思い出されます。そのような中でも委員会みんなが一致団結し全員野球で、一人一人が持てる知識や力を結集して事業を成し遂げられたのは、2011年3月11日を経験した2011年度青少年育成委員会だからこそ出来る事をやろうという私の思いを委員みんなが正面で受け止めて頂き、理解して貰えたからだと感じております。そしてこの一年間は、我が街に災害が起きた時、JCがやるべき事、JCだから出来る事、JCに期待される役割が何であるか、日ごろから備えが出来ているか、組織として準備は完了しているのか、自分は準備万端であるのか、気づかされ、考えさせられる一年でもありました。

最後になりますが、当委員会の取り組みにご協力いただきました全ての皆様に感謝申し上げます。正副の皆様には、このような当委員会の想いを受け止めて頂いた上で数え切れないほどのご指導やご助言、ご助力を賜りました。中でも、担当副理事長の鈴木泰三副理事長には、陰日なたに私を助けて頂きました。この場をお借りして皆様にお礼を申し上げ、委員会事業報告といたします。